

学生図書委員会 活動報告ほか

娯楽と共に

図書委員会委員長 電気工学科5年 堀江 太成

フィクションと共に日々を過ごしてきた。普段得られない最高の体験を、刺激を得るために。映画、アニメ、音楽、本、ゲームなどどんな媒体であっても面白い作品は存在する。娯楽は必要不可欠なものではないが、人生を豊かにしてくれる要素であると思う。だから、探し続けたい。

作品との出会いはいつあるか分からない。僕が小説の面白さを知ったのは森博嗣の「すべてがFになる」を読んだ時だった。正確で無駄のない理系的な文体、建築物の構造に基づいた論理的な解決。夢のような不安定な世界の表現。天才たちが紡ぐこのミステリー作品を夢中になって読んだ記憶がある。本嫌いの僕がこの本に出会ったのは偶然だった。いつもなら目を向けることもしない筈の小説コーナーで、純白の表紙を纏った本作を見つけ足をとめた。曖昧で想像を掻き立てるタイトルに衝撃を受け、初めて小遣いで購入した。それから今に至るまで読書をしない日はなかったと言っても過言ではない。どこへ行こうとも本を持ち歩いている。人生が大きく変わった瞬間だろう。

本という作品媒体の魅力は抽象性にあると考える。読者によって映る景色は違う。しかし、物語は共通して動く。自分の好みに合わせた世界を見つつ、最高の物語を共有することができるのだ。それに加え、小説家たちの美しくも曖昧な言葉を知っていくことで想像力や感性は磨かれる。いつしかフィクションを超えて現実の景色の映り方まで変わっていく。これからの生活を豊かにしてくれることだろう。

言葉を知ることできっと実験レポートや就職活動でのエントリーシートなどで役に立つことが出てくる。そのためにとは言わないが、知っておくのも悪くないことだろう。

小説や映画などのエンターテインメントを楽しみつつ、言葉や物語を深く知っていくことでより面白みが増す。毎日が退屈だと感じている人がいれば是非何かしらのエンターテインメントに触れて欲しい。そして、深い所までもぐりこんで見て欲しい。得られるものはきっと大きい。

プロジェクト報告書

電気工学科5年 堀江 太成
電子制御工学科4年 山下 凜太郎

この場をお借りして今年度の学生図書委員会の活動報告をさせていただきます。委員会の活動で、学生が図書館を利用したいと思えるような企画をいくつもしてきました。今年度はブックハンティングと高専祭用の動画制作をしました。

新学期になり、委員会のメンバーが決定したのは良かったものの、委員会活動がオンラインでの音声通話が大半であったため、互いの顔を知らないままでの活動が約4か月に渡り行われました。

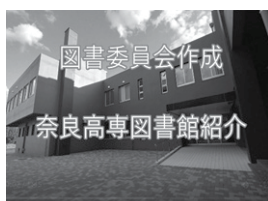
今年度の高専祭はコロナウイルスの影響に伴い、昨年に引き続きオンライン形式での開催となりました。昨年度を超えること、話題性があり図書委員会の名が少しでも多く行き渡る動画を制作することを最大の目標として高専祭プロジェクトの活動をしました。

対面での委員会活動を試みたものの、活動場所の制限やメンバーの都合により活動の進行は著しく遅滞してしまいました。図書に関連するものを他の出し物に匹敵または超えるような出し物に仕上げるという困難さや、圧倒的なネタや素材不足などの要因により、プロジェクトの進捗は足踏み状態になり、気が付けば高専祭開催まで間もない時期になってしまいました。

そこで私たちは会議を重ねた結果、エンタメ性があり、見終わった後に考えられる動画の制作を行うことにしました。前途多難な挑戦だったこともあり企画段階では意見が纏まりませんでした。“動画”という考え方に縛られていたことが一つの原因でした。

映像を上手く撮れない、構図を考えられないのであれば、思い切って“読み物”にしてやろうと画策しました。こうして高専祭用の動画が完成しました。メッセージ性の高い作品に仕上がったのではないのでしょうか。

最後に、今年度の学生図書委員会では図書館利用の促進を行うだけでなく、本や言葉の魅力を知ってもらいたいと考えております。これからも学生の勉学を手伝うだけでなく、学生の生活を豊かにできるような活動を行っていきたい所存でございます。是非、立ち寄るだけでも良いので気軽に図書館を利用してみてください。もしかすると素敵な本との出会いがあるかもしれません。



学生図書委員会作成 図書館紹介動画

図書館ホームページでは、学生図書委員会が作成した図書館紹介動画を公開しています。自動貸出返却機の使い方などが説明されています。



広報プロジェクト活動内容

情報工学科5年 二ツ井 克空

皆さんこんにちは。

今年度の広報プロジェクトの活動報告をさせていただきます二ツ井克空です。

さて、皆さんからすれば「図書委員会の広報プロジェクトってなにやっていたの?」と疑問に思われた方がおられるかもしれませんが、今年度の活動としては現在お読みいただいている図書館だよりに関する活動をいたしました。具体的には今年度図書委員会が行った活動の報告と読書感想文に関する執筆を行いました。

今回、図書館だよりを作成するうえで皆さんが図書館に行ってみたいと思えるような記事を書いてみました。具体的には、図書館を利用するにあたってどのような本を読んだらいいのかわからないといった点の解消方法として私たちが読書感想文を書き、それを皆さんに読んでいただき本の内容をつかんでもらい、実際に図書館で借りてみようと思えるような取り組みを行いました。1年生や2年生の方は校内読書感想文コンクールが実施されましたので、その感想文執筆を通して図書館を利用された方もいらっしゃるかもしれませんが、3年生以上の方に関してはレポートなどの課題で忙しくあまり読書に費やせるような時間がなくあまり利用されていない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。もし、そのような方も本誌で掲載されている読書感想文を読んでいただき図書館に足を運ぶきっかけになれば幸いです。

当然、まだまだ図書館関連の広報としては不完全なものではあります。例えば現在では図書館だより以外の媒体での広報活動は行っていないので。何かしらの方法で図書館の情報について発信できれば良いなと考えております。

最後となりましたが、あと残り短い今年の図書委員会活動を頑張ってまいりたいと考えておりますので、今後も図書委員会をよろしく願い申し上げます。

図書館だよりの表紙絵について

図書館だよりの表紙絵は、美術の授業の作品で教員から推薦された中から、教育支援センター運営委員会での投票により選出しています。

ホームページでは、候補作も含めすべての作品がご覧になれます。

